

第2回 習志野市立学校副教材在り方検討委員会議事録

1 開催日時 令和8年7月17日（金）午後3：00～午後4：00

2 開催場所 習志野市庁舎2階 2－4会議室

3 出席者

【委員長】	学校教育部長	上原 香
【委員】	学校教育部次長	大竹 博和
	教育総務課長	中野 充
	学習指導課長	田中 紀代美
	総合教育センター所長	青野 孝幸
	総合教育センター指導主事	三平 明広
	屋敷小学校長	徳武 義裕
	第四中学校長	近藤 篤史
	津田沼小学校教頭	白戸 雄一
	第三中学校教頭	城崎 雄土
	香澄小学校教諭	早川 歩
	第七中学校教諭	境谷 主
	PTA 連絡協議会事務局長	吉田 昌之
	会計監査	菊池 美加
【事務局】	学習指導課指導主事	柴尾 一輝
		辻本 諒

4 議題

（1）教育委員会の方針とアンケート結果の概要

（2）今後のA I型教材（ミライシード）に関する活用と運用について

5 会議資料

※別添資料

資料1 今後のA I型教材（ミライシード）に関する活用と運用について
（スライド資料）

資料2 各作業部会の報告

資料3 アンケート集計結果

6 議事内容

(1) 教育委員会の方針とアンケート結果の概要について

【田中委員】 教育委員会の方針とアンケート結果の概要について説明する。令和9年度のA I型教材本格導入を見据え、学校裁量で購入している紙の副教材の必要性を整理するとともに、A I型教材への置き換えについて検討してきた。

全3回の作業部会では、小・中学校の教員が教科ごとに、A I型教材導入に伴う課題や活用方法について協議し、「授業力の向上」を基本としながら、副教材に過度に依存しない授業づくりを目指して検討を進めた。

7月に実施した教員・児童生徒・保護者アンケートでは、A I型教材に対する様々な意見が寄せられ、本市の目指す教育や導入の趣旨について、教育委員会からの周知・説明が十分ではないことが課題として明らかになった。

作業部会での検討結果及びアンケート結果を踏まえたA I型教材の活用・運用案を提案し、委員からの意見を今後の運用に反映させること、また、導入後も定期的なアンケート等により継続的な改善を図る。

(2) 今後のA I型教材（ミライシード）に関する活用と運用について

【事務局柴尾】 アンケート結果を基に、今後のA I型教材いわゆるミライシードに関する活用と運用について説明する。

アンケートでは、反復学習や即時フィードバック、教員の採点・進捗管理の効率化などのメリットが確認された一方、書く機会の減少、漢字を書く力や思考力・理解力への影響、視力低下への懸念などの課題が示された。

今後は、ミライシードとノート・紙教材を併用し、「書くこと」「考えること」を保障するとともに、授業での使用時間や課題設定を工夫し、合理的配慮や教員間での教材共有、生成A Iの適切な活用を進める。

小学校では、漢字や計算はノートを併用し、低学年では紙ドリルを継続して活用すること、テストはテストパークを基本とし、一部学年・教科は紙のワークテストを活用する。また、評価は授業全体を通じて総合的に行う。

中学校では、ドリルパークを基本としながら教科ごとに不足する内容を補完すること、ノートを活用した学習や生成A I、データ教材等を活用していく。また、定期テスト前に課題を集中させる運用を見直し、日常的・計画的な課題設定へ転換する必要性がある。

定期テスト前のプレテストや暗記教材、学習履歴を活用した個別最適な学習を行うことができる。

今後もアンケートや実践事例を踏まえ、学校への周知や教員研修を進めながら、A I 型教材の効果と課題を検証し、継続的な改善を図る。

(質疑応答)

【徳武委員】 「授業の最初または最後の 10 分を基本とする」という説明は、デジタル教材全体を指すのか、それともドリルパークの使用を指すのか。また、採点についてはどのように考えているのか。

【事務局柴尾】 最初と最後の 10 分はドリルパークである。

ミライシードのテストは、自動採点と手動採点を選択できる仕組みとなっており、選択式問題は自動採点、漢字などの記述式問題は手動採点とするなど、問題に応じた運用が可能である。手動採点を取り入れた場合でも、採点業務全体の効率化につながると考えている。

【吉田委員】 A I 型教材の導入を進めることとなった経緯について伺う。特に低学年での活用は、文部科学省の方針によるものか、それとも習志野市独自の取組なのか。

【事務局柴尾】 導入の背景には、文部科学省が示す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実という方向性がある。その実現に向け、一人一人の学習状況に応じた学びを支援する手段として A I 型教材を活用するものであり、習志野市としても、その方針に基づき導入・運用を進めている。

【吉田委員】 A I 型教材の推進により家庭での負担や保護者の反発が懸念されるところで、保護者アンケートでは「ミライシードやドリルパークのメリットを感じない」と回答した人が最も多く、課題として捉えている意見も多かったことについて、教育委員会としてどのように受け止めているのか。

【事務局柴尾】 保護者からの意見を重く受け止めており、メリットを感じる保護者が増えるよう取り組んでいく必要がある。また、児童生徒が学習効果を実感し、その成果を保護者が評価できるようにすることが重要であり、そのためには教員の授業力向上や授業改善を進め、学力向上につながる授業づくりを推進していくことが必要である。

【吉田委員】 採点業務の負担軽減は学力向上を支える重要な取組である一方、現場では新たな対応が必要となり、かえって教員の負担が増えているとの意見もあるが、その点についてどのように対応していくのか。

【事務局柴尾】 作業部会では、プリント作成システムなど教員の業務負担軽減につながる支援策について協議を行い、教員が必要とする支援について意見を聴取した。今後も作業部会での意見や教員アンケート等を通じて現場の状況を把握し、必要な支援策を検討していく。

【徳武委員】 アンケート結果では、「使っていない」「分からない」という回答が多いことが気になった。学校で研修を実施したところ、新たな活用方法を知ることができた。教職員間で活用方法を共有することで、児童生徒も便利さや良さを実感できるようになるため、教職員研修の充実やマイスター制度の活用を進めることが重要である。

【上原委員長】 保護者からの不安に挙げられていたタッチペンに関して追加説明を願う。

【青野委員】 タッチペンについては、手が画面に触れてしまうことやペン先が太く書きにくいことなどの意見が寄せられている。また、細いペン先のものは破損しやすく、電池式や純正品は高額で紛失時の対応も課題であることから、一長一短があるので、利用しやすい製品について情報提供を検討していく。

【事務局辻本】 教職員研修について補足説明を願う。

【青野委員】 教職員研修については、昨年度9月に小・中学校で研修を実施した。また、今後は教科ごとの研修についても実施を検討している。

【近藤委員】 漢字学習については紙のワークがよいという児童の声もあるが、継続的に活用することでデジタル教材にも慣れていくことが重要である。また、保護者・教員ともに学力向上を重視しており、教員が自作プリントを活用するなど工夫している実態がある。ミライシードに関する改善要望については、学習指導課や総合教育センターへ伝えるとともに、教員側も授業改善に取り組む必要がある。

【事務局辻本】 実際に運用している学校での状況について説明を願う。

【白戸委員】 実際に運用した結果、学習効果や授業改善に有効であるとの認識を示した。特に、課題配信後に正誤を即時に把握できるため、多くの児童生徒がつまづいている問題をその場で共有・指導できる点がメリットである。一方で、練習問題はノートを活用するなど、ミライシードだけで授業が完結するものではなく、紙教材との併用が前提である。また、保護者アンケートでは副教材費の軽減を評価する意見も見られたが、それ以上に学習効果を重視する声が多く、作図などデジタルでは対応が難しい内容については今後も改善が必要である。

【城崎委員】 中学校では、従来の紙ドリルや紙テストによる学習方法が定着しているため、A I型教材への適応には時間がかかる。また、紙教材との意図的な併用が必要であるとした上で、来年度以降も市販ワークを購入できないのか、今後の方向性はどのようになっているか。

【事務局柴尾】 作業部会での検討結果を踏まえ、ミライシードで代替可能な教材につい

ては購入しない方向で考えている。また、第3回在り方検討委員会で最終的な方向性を検討していく。

【吉田委員】 保護者負担の軽減よりも学力向上を重視すべき。また、私立学校では低学年を中心に紙教材を重視している事例もある。漢字や作図については紙のワークを活用することも検討すべき。

【菊池委員】 保護者代表として、導入が急であったことから保護者の戸惑いが大きく、家庭で学習状況を把握しにくいことや宿題への関わり方が変わったことに不安を感じている。また、導入の経緯や目的について保護者へ説明する機会が必要ではないか。

【青野所長】 保護者が学習状況を確認しにくいことは課題として認識している。タブレットを開かなくても保護者が学習状況を確認できる仕組みについて、今後ベネッセと協議していく。

【事務局柴尾】 保護者への周知は実施したものの、十分な理解が得られないまま導入したことは反省点である。今後は在り方検討委員会での議論を踏まえ、学校を通じて導入の趣旨や運用方針を丁寧に周知し、保護者の心理的負担の軽減に努める。